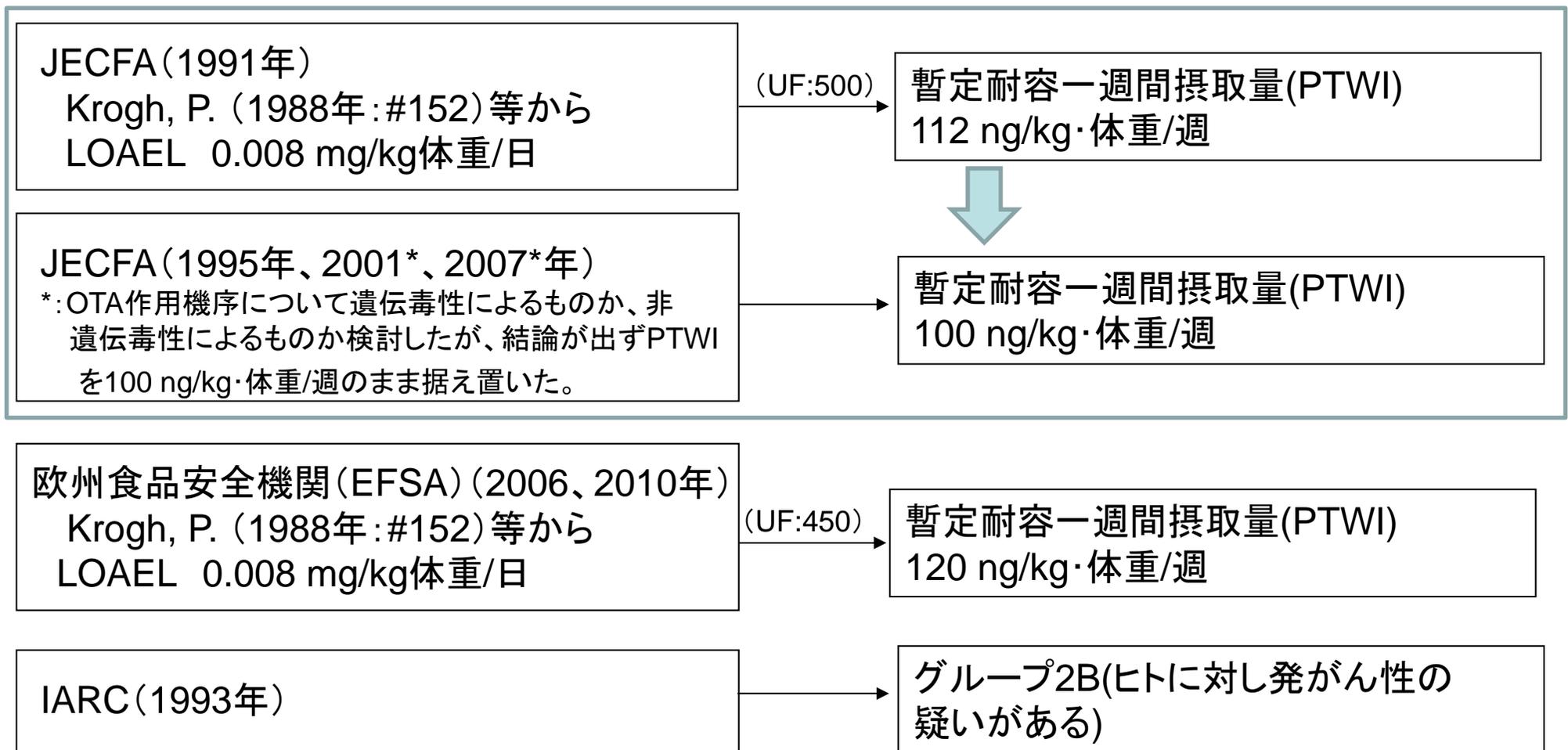


オクラトキシンAの国際的な評価状況(概要)

参考資料1



欧州食品安全機関(EFSA)(2006年)において、閾値設定を可能とした根拠

OTAによるDNA損傷および遺伝影響ならびに部位特異的な腎毒性が、各種の*in vivo*と*in vitro*試験で観察され、そのほとんどは、細胞の酸化的損傷に起因することが示されている。さらに、最新の化学分析手法では、特異的なOTA-DNA付加体の存在が確認されていない。OTA-DNA付加体の存在に関する科学的証拠がないことを考慮して、EFSAは、OTAのリスク評価において閾値に基づく手法を使用した。